



No. 146 (令和6年3月1日)

おもな内容

ページ

随想	1
教育講演会	2
研修講座寸描	3～5
出前講座寸描	5～6
令和6年度 講座開設の工夫とICT実技研修講座開設について	7
令和6年度 開催予定講座	8
研究室だより・研究協力校の実践	9～10
事業の変更点について	10

今年度は、四年ぶりに制限のない体育大会が行われました。準備・練習・係活動の簡素化を進めるとともに子どもたち一人一人に充実した学習を保証できるように教育課程の改善を図ってきました。体育大会のフィナーレでは、生徒会の「体育大会最高」のかけ声に合わせて、全校生徒がジャージを天高く舞い上げました。コロナを経験して誕生した名寄東中学校の新しい伝統です。(名寄市立名寄東中学校)

随想

お伊勢参り



上川教育研修センター

副所長 石 前 聖 香

一生に一度はお伊勢参り。江戸時代に年間四百万人が伊勢神宮を参拝したという説もあり、当時から続く人気の高さに圧倒されます。

昨年、還暦を迎え、定年退職となり、六十代のうちに各地を旅したいなあと考えていました。自身の年齢を鑑みると、当然ながら親も年をとります。母を先に送り、ひとり暮らしをしていた八十代の父が体調の不安を抱えていたため、父との介護生活を優先する日常になりました。

父は、昔気質の仕事人間でしたので、家庭は全て母にお任せでしたが、二人の娘たちには深い愛情を注いでくれました。幼い頃はもとより、家庭をもつてからも仕事を続ける娘に対して「これから女性の社会参加が大事。」「子どもは未来の宝だから」と最大限の理解と援助を惜しまず、孫育てを含め全力で応援してくれました。そうしたバイタリティーと慈しみの心は、戦争で親を亡くし、貧しくもたくましく少年時代が原点にあったのかもしれません。

定年まで勤めきれたことがほんの少しだけ父への恩返しになったのかなと思う反面、ありがたさの気持ちにはなかなか伝えられないものです。

そのような中、特に信心深くもなく、手を合わせるのとは初詣のとき程度にもかかわらず、日本最大のパワースポットと

言われる伊勢神宮ならかなりの御利益がありそう、と思い立ち、仕事と介護の合間を利用して家内安全の御祈願にお伊勢参りへ。

移動のバスの中で、「神宮は日頃の感謝を神様に伝え、敬う場所です。」と教わり、恥ずかしながら願う事は別宮ですもの、と初めて知りました。宇治橋を渡り、その先の五十鈴川で手水をと、凛とした静寂に包まれて玉砂利の参道を進むうち、不思議と私利私欲や邪念が薄らぎ、ただ無心で手を合わせ「ありがとう」を繰り返していました。

お伊勢参りは「おかげ詣り」とも言うそうです。

お陰様でここにこうしていられます、と感謝の気持ちを持ち、周囲の方々から受けたご恩を自身の言葉や行動に映しながら、穏やかに笑顔で暮らしていこう。そして、新旧のご縁を大切に、研修センターの一員として、開所以来半世紀の実績と伝統を基盤に上川管内教育の更なる充実・発展に向け、所員一丸となつて五十一年目の歩みを進めてまいりたい。そう心に誓った、初夏の伊勢路でした。

参拝の帰り道、欲に負け、赤福もちを頬張る己の姿に苦笑。「志高く、益々精進せよ。」と父の激励が聞こえる気がしました。

「稲作活動 収穫祭」 令和五年十二月七日実施
本校では、地域の基幹産業である「稲作活動」を小中縦割り班で毎年実施しています。この活動を通して、子どもたちは稲作の大変さや収穫の喜びを知るとともに、地域の方や食への感謝の気持ちを改めて感じる事ができました。収穫祭では、地域の方に教えていただきながら、自分たちの力で田植え、稲刈りをした新米をいただきました。小中の児童生徒と一緒に育てた新米は格別のおいしさで、みんなの笑顔があふれる一日となりました。

(旭川市立桜岡中学校)



日誌

11月2日	研修事業拡大会議
11月30日	運営協議会
12月12日	研究発表会
1月9日	冬季合同所員研
1月17日	センター組合教育委員会会議
2月7日	センター組合協議会定例会
3月1日	令和五年度研究紀要第四十九号
3月31日	発行(Webサイト掲載予定)
4月1日	令和六年度研修講座開催要項
※	発行(Webサイト掲載予定)
※	毎週火曜日 定例研究室会議

上川教育研修センター 教育講演会

概略

演題 「令和の日本型学校教育の構築

～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて～」

講師 國學院大學人間開発学部初等教育学科 教授 田村 学 氏
(元 文部科学省初等中等教育局視学官)



★ 令和の日本型学校教育の構築

令和の日本型学校教育の答申は、能動性を重視した「主体的・対話的で深い学び」に加え、一人一人にも丁寧な目を向ける「個別最適・協働」「指導の個別化・学習の個性化」という言葉が出てきましたが、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」をより一体的に育成するということには変わりません。指導の個別化は「習得」、学習の個性化は「探求」と捉えておくと思います。どちらにおいても、「協働」は欠かせません。つまり、学校という学びの場、指導の専門性のある先生と、カリキュラムのデザインのプロフェッショナルがいる学校は、これからは欠かせないということです。二〇年改訂も二九年改訂も令和の日本型学校教育も基本的には一緒で、「主体的・対話的で深い学び」を実現していくということになります。

★ 主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学び」は、資質・能力の育成です。それを実現するには、授業改善とカリキュラム・マネジメントが大切であり、答申や学習指導要領の関係性、構造をいかに自分のものにしていくか、それぞれの学びをいかにクリアかつ質高くイメージするかがポイントです。

(1) 「深い学び」と精緻化

情報が繋がりネットワーク化しているのが精緻化です。私たちが目指していくのは、個別的な知識が繋がり、ネットワーク化している概念的で構造的な知識です。「深い学び」は、知識・技術が関連付いて構造化され、知識の状態を高度化していくと捉えていたのだと思います。高度化した知識が繋がり、ネットワーク化して、自由自在に使えるものにしていくというイメージをもつと、「主体的・対話的で深い学び」のイメージがもてます。

概念化された構造的な知識にするためのポイントが「活用・発揮」です。「活用・発揮」を言い換えると、いかにアウトプットするか。音声言語と文字言語をいかに使うか。授業の中の「話す」「聞く」を潤沢かつ質高くやるかということです。アウトプット

すると頭の中の知識が、どんどん繋がってネットワーク化し、精緻化されます。繋がっている知識は結び付いているので、長期にわたって保持されるのです。関連付けや精緻化ということを知っていると、授業のバリエーションが広がります。

(2) 探究のプロセスと価値

探究のプロセスは、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現といったことで進められてきました。PISA二〇二二では、国が大きな方向性を四つ示しました。それは、①主体的・対話的で深い学びを進めること、②個別最適の事例を増やすこと、③言語活動の充実、④探究の充実です。

高校がかなり探究に取り組んでいます。やりたいことが明確化し探究してきた子どもの方が大学で伸びるのです。「主体的・対話的で深い学び」、探究がいかに重要かということが見えてくると思います。

(3) カリキュラム・マネジメントの縦と横

カリキュラム・マネジメントについては、三つの側面が示されました。キーワードは、①内容の組織的配列、②PDCAサイクル、③リソースの活用です。とりわけ①を管理職だけでなく、多くの先生でやっていくという話です。学習指導要領では、教育課程を編成するとき、教育目標と資質・能力を関係付けることになっています。鍵は、各学校教育目標を具体的な子供の姿に照らし合わせて、資質・能力の三本柱にブレイクダウンし、授業まで落とし込むということです(縦)。このとき、コアになるのが単元配列表です。

次に、単元配列表を横に見ていき、重点化する単元を決めます。もう少し頑張れる学校は、関連単元を見ていきます。関連には、「資質・能力の関連」と「学習対象の関連」があります。例えば、教科で学んだ資質・能力を総合でも活用・発揮して確かなものにすることや、学習対象を使用・促進して単元を意図的に行うということです。これらがクリアに見えてくると横断的というものがはっきりし、具体的にチャレンジできます。

★ 個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学びの実現には、ICTの活用を促進する必要があります。環境と状況(自分の思いや願いなどの文脈)を視野に入れた間接的な指導が整ったときに、子どもたちの本気で真剣な表情が出てくるのです。

個別のシーン(ミドル)の前(ビフォー)には一斉指導があり、ミドルの後(アフター)にも一斉指導があります。ミドルだけでなく、その前後への目配りも大事です。ミドルは、習熟度、興味関心、学習方略、認知特性など子どもの多様性に対応しているかどうか重要です。ミドルを自立的なものにするには、ビフォーで目的、課題、見通し等がクリアに設計されているかどうか極めて重要になります。アフターでは、まとめたものをギャラリで見ただけでなく、もう一回全体でディスカッションしたり、デジタル入力したりします。

単元内自由進度学習の際に注意することは、いける子とそうじゃない子の「格差」と「浅い学び」の問題です。協働的な学びは、子ども同士が意見交換しながら自分の学びの質を上げていきます。そこに、教師は適切な板書等を上手く位置付けるわけです。デジタルと板書等をどのように使っていくかが極めて重要です。ICTを使うと協働が豊かになる一方、発言量が減る傾向が出てきます。そこで、例えば、ここからはグループで考え、紙にまとめようみたいなしていくわけです。両者がうまく融合することで、子どもたちは発話がどんどん促進されていきます。

一斉だから個別がないと考えるのはおかしく、協働と個別は一体的に起きていると思います。一人一人が学ぶシーンを個別最適、みんなで学ぶシーンを協働的と分けるのではなく、両者をいかに上手い具合に行きつ戻りつしていくかということです。一人で学ぶシーンにも、みんなが学ぶシーンにもメリットとデメリットがあり、ストロングポイントは生かし、ウィークポイントは消しかかるといふことがうまくできるということです。

研修講座寸描

受講者の感想から



・授業づくりの視点や、日々の授業の悩み等を交流することができ、これからの授業づくりにおいて非常に勉強になりました。特に見方・考え方を働かせる指導について、小学校と中学校でリンクする部分や異なる部分を聞いたのが良かったです。

・問題の見いだし方についてどのような視点で考えればよいのかとても丁寧に分かりやすく教えていただき理解できました。

講師

小野 晴子
〔上川教育局義務教育指導班 主任指導主事〕
鶴田 庸介
〔知新小 教諭〕
戎谷 義明
〔啓北中 主幹教諭〕

10 算数・数学科指導 8/3(木)・9/27(水)

講師

沼澤 和範
〔旭川市教育委員会 教育指導課 主査〕
石坂うた子
〔豊岡小 教諭〕
小幡 俊夫
〔東光中 教諭〕

・「授業構築」「資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」など、普段何気なく使っている用語の意味を再確認しながら、算数科の授業改善のポイントを学ぶことができました。二期以降の授業づくりや校内研修に生かしていきたいと思えます。

・小学校の低学年の指導方法について、子どもたちを飽きさせない隙間時間の使い方や学習意欲につながる活動など、実践したいことがたくさんあったので、とても勉強になりました。中学校との違いも見られて勉強になりました。



11 外国語（英語）指導 8/4(金)・10/6(金)

講師

柳澤 麻弥
〔旭川市教育委員会 教育指導課 主査〕
辻野 尚広
〔神楽小 教諭〕
井本あさ美
〔東鷹栖中 教諭〕

・言語活動に向けた指導の工夫では、相手への反応や態度もコミュニケーションの一つと伝えたり、何度も練習を繰り返して言えるようになるよう段階を経たりすることが大切だと分かりました。

・資料をもとに、実践例と併せて講義いただき、自分の中で曖昧だったことを明確にできる内容で大変参考になりました。ありがとうございました。



12 社会科指導 8/7(月)・10/19(木)

講師

植田真夕子
〔北海道教育大学旭川校 准教授〕
寒川 寛之
〔忠和小 教諭〕
熊谷 潤一
〔六合中 教諭〕

・小学校、中学校どちらの授業も観ることで、社会科においてどのような繋がりがあのか、他の学校の先生とともに話し合うことができ良かったです。

・小学校の授業では、知識を定着させるための発問の工夫や考える視点を与えることが勉強になりました。中学校の授業では、様々なICTの活用の仕方が参考になりました。



16 学校保健 9/12(火)

池田 暁
旭川市教育委員会
学校保健課 主査

講師Ⅱ

・コロナ禍が明けてからのことや、養護教諭としての役割、他の教職員との連携の大切さについて感じることができました。また、グループワークで他校の保健指導のあり方や悩んでいることを共有することができてよかったです。

・様々な校種や経験年数の違う先生方とお話しする機会があり、日頃の疑問に対してアドバイスをいただけました。これからもっと頑張ろうと思う、とても良い機会となりました。



17 特別活動 9/21(木)

講師Ⅱ

齋藤 知尋 (西御料地小 教頭)
久川 聡 (緑新小 教諭)

・子どもたちが全員で参加している姿が素晴らしい、今日の授業に至るまでの学級経営や積み上げてきた経験があるからこそ、今日の姿に繋がっているのだなと感じました。大変勉強になりました。

・話し合い活動の進め方や必要性をどの子も理解できていると感じました。他人事ではなく自分事として考えて話し合いに参加することができている姿が素晴らしいです。



18 学校経営Ⅱ 9/26(火)

講師Ⅱ

望月 俊綱 (上川教育局 教育支援課長)
南部 和紀 (東川小 校長)
三浦 一路 (東五条小 校長)
岩瀬 一弘 (北星中 校長)
千葉 良彦 (富良野西中 校長)

・講師の方の豊富な資料は、今後の業務推進において大変貴重な情報でしたので、今後活用したいと思いました。また、研究協議を通して、各校の取り組みを交流できたことが大変有意義でした。

・一年半の教頭業務を経験したうえで、学ばせていただいた研修でしたので、実感として伝わる内容がたくさんあり、今後の業務改善に活かしたいお話もたくさんありました。



19 書写指導(実技) 10/5(木)

講師Ⅱ

西川 竜矢 (北海道教育大学旭川校 准教授)
押切 秀勝 (東栄小 教諭)

・書写に関して知識がない状態でしたので、大変参考になりました。研究授業では、個の課題をそれぞれに設定させることや、生活にいかすための振り返りなど、自分になかった発想が多々ありました。これからの授業づくりの参考とさせていただきます。実技では、基本的なことから教えていただいていたことがとても良かったです。特に終筆の筆の抜き方、筆が寝ないように圧をかけるという点が学びになりました。



20 音楽科指導（実技） 10/13(金)

講師

米津 理臣（美瑛東小 校長）
山本 帆南（美瑛小 教諭）

・音楽科の指導は、小学一年生からの積み重ねを大切にすることで、子どもたちに深い学びを提供できることを改めて感じました。また、一人一人を取り残さない指導をすることで、みんなで音楽を表現することの楽しさを子どもたちに実感させてあげられるのだと思いました。日々の指導をふりかえり、改善していこうと思います。

・音楽づくりの授業においてのICTの利用や、音楽の要素と根拠の結びつきの重要性について改めて学習することができました。



22 書に親しもう 1/5(金)

講師

伊藤 文江（知新小 校長）

・とても楽しい時間を過ごさせていただきました。書は堅苦しいものではなく、楽しむ心が大切だと感じました。一緒に講座を受講した方とも、楽しく和やかに歓談することができました。新年の始まりとして、良いスタートを切れたと思います。ありがとうございます。

・ろうけつ染めを初めて体験しました。いろんな見せ方があるのだと、改めて書の奥深さを感じました。ありがとうございました。



23 絵に親しもう 1/5(金)

講師

西村 徳清（神居中 教諭）

・自分の絵を描くことで、丁寧に物事を見ることにつながると気付きました。時数が限られていて、なかなか十分な時間が取れない中ですが、自分自身のことや身の回りのこと、勉強においても丁寧に取り組むことはとても重要だと思うので、絵という取り組みやすいものから取り入れていきたいと思います。

・人物の描き方について詳しく教えていただきとても勉強になりました。子どもが表現したくなるような、コミュニケーションの取り方が参考になりました。



知新小 ICTの活用「プログラミング教育の実践」 9/14(木)

音威子府小中 今日的な教育課題「小中連携」 9/12(火)

出前講座寸描

【講師】森野 憲仁（比布町教育委員会 学校教育指導主事）

小中連携・九年間の学びを見通すための工夫について詳しく、具体的に御指導してくださり、ありがとうございます。今後、小中での繋がりをさらに深め、子どもたちの数値では表されない気持ちや能力も育てていきたいと思います。

（音威子府村立音威子府小中学校 穂刈 彩花）



【講師】石本 周司（東川小 教諭）

楽しくわかりやすい研修でした。教えていただいた「カポート」や「クイックドロー」などをすぐに授業で活用してみました。学んだことを実践できるように体験させていたただいたのが、とてもありがたかったです。本当にありがとうございます。（旭川市立知新小学校 渡曾 航平）

令和6年度の講座開設の工夫

- (1) 教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、「学級経営と教育相談」講座では、発達障害や校則の見直し等が新たに盛り込まれた生徒指導提要改訂版やヤングケアラーの理解を深めることを重視する。
- (4) 教育課題研修では、「令和の日本型学校教育」「学校と地域の連携・協働」「教育講演会」「センター研究発表会」の講座で今日教育課題に対応する。また、「ICTと情報モラル」講座では引き続き、授業研究と理論研修を行う。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに、それぞれの授業研究を行う。
- (6) 教科実技研修では、免許外教科担任のニーズに応えるため、管内研究団体と連携した講座を開設するとともに、授業研究及び受講者の指導実技向上を重視する。
- (7) ICT実技研修では、教職員のニーズに応えるため、AIに関する内容を取り入れるとともに、「表計算」「タブレットPC」「プログラミング」についての講座を開設する。また、定年延長に伴いベテラン層のニーズが高まっていることを踏まえた講座内容を工夫し、全講座で複数講師による少人数指導で対応するとともに、受講しやすくなるように全講座を半日日程で開設する。
- (8) 北海道立教育研究所と連携した講座を開設する。
- (9) 期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (10) 講座開設情報は、開催要項に加え、センターだより、Webサイト、電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
- (11) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利便性を図れる資料室の充実に努める。
- (12) 上川管内で開催予定の各教科等の全道・全国規模の研究大会との連携に努める。

令和6年度ICT実技研修講座の開設について

GIGAスクール構想が推進され、令和5年度までにすべての小中学校で「一人一台端末」「校内無線ネットワーク環境」を整えるという文部科学省の目標は全国でほぼ達成されました。令和時代における学校のスタンダードとして、ハード面の環境整備が整った今、一人ひとりの子どもたちを主体とした「個別最適な学び」や、思考力や表現力を高め合う「協働学習」のより一層の充実が求められています。当センターのICT実技研修講座では、ICT活用の技術を身につけ、授業改善や校務の効率化を目標とした講座を準備しております。ぜひ御活用ください。

開設講座について

【表計算に関する講座】

- A <表計算入門>（初級者向け）
エクセルの基礎・基本や初歩的な関数、絶対参照・相対参照など。
- B <校務のための表計算>（中級者向け）
校務で活用できるエクセルの技術や関数など。
- C <校務のための表計算／クラウド活用>（中級者向け）
校務で活用できるクラウドサービスと表計算の応用など。

【プログラミングに関する講座】

- D <授業のためのプログラミング入門>
小学校プログラミング教育の理論研修
情報活用能力を基盤としたプログラミング教育
プログラミング的思考を充実させた授業づくり

【タブレットPCに関する講座】

- E <タブレットPC入門>（初級者向け）
タブレットPCや基本アプリケーションの使い方など。
- F <授業でのタブレットPC活用>
授業における一人一台端末の効果的・効率的な活用、AIの効果的な活用方法など。
- G <校務でのタブレットPC活用>
校務におけるICT機器の効果的・効率的な活用、AIの効果的な活用方法など。

令和 6 年度 上川教育研修センター 開催予定講座

番号	講 座 名	開催日	研 修 の テ ー マ	授業
1	学校経営Ⅰ	6/4	新しい時代を創造する学校経営の在り方	
2	特別支援教育	① 6/13 ② 7/2	障がいのある児童生徒の生きる力を育む特別支援教育と合理的配慮	小中
3	センター研究発表会Ⅰ	6/18	第20次研究2か年計画（1年次）の研究発表 ～センター研究員の実践～	未定
4	学級経営と教育相談	未定	自己指導能力を高め、望ましい人間関係の構築に寄与する学級経営の在り方	
5	読書活動	6/26	児童生徒に本を読む喜びを感じさせる指導の在り方	小
6	複式教育	7/3	複式教育の特徴を生かし、児童生徒の能力を効果的に高める指導と評価の在り方	小
7	幼保小連携教育	7/24	小学校への滑らかな接続を目指す幼小連携教育の在り方	
8	道徳科指導	① 7/25 ② 9/5	児童生徒の道徳性を高める道徳科指導の在り方	小中
9	国語科指導	① 7/26 ② 9/10	言葉による見方・考え方を働かせ、適切に表現したり、読み取ったりする力を育てる国語科指導と評価の在り方	小中
10	理科指導	① 7/29 ② 10/2	理科の見方・考え方を働かせ、問題解決に向けて多面的に考える力を育てる理科指導と評価の在り方	小中
11	学校事務実務	7/31	学校事務における今日的課題	
12	算数・数学科指導	① 8/1 ② 9/25	数学的な見方・考え方を働かせ、統合的・発展的に算数・数学の問題解決に向かう学習指導と評価の在り方	小中
13	外国語（英語）指導	① 8/2 ② 10/4	コミュニケーションを図る資質・能力を育てる外国語（英語）指導と評価の在り方	小中
14	社会科指導	① 8/5 ② 10/31	社会的事象の見方・考え方を働かせ、多角的に考えて議論する力を育てる社会科指導と評価の在り方	小中
15	令和の日本型学校教育	8/6	『令和の日本型学校教育』の実現を目指し、子どもたちの多様な学びを支える『新たな教師の学びの姿』への転換	
16	学校と地域の連携・協働	8/19	子どもたちの豊かな成長を支える学校と地域の連携・協働	
17	教育講演会	8/20	演題（仮）『令和の日本型学校教育を考える ～主体的、対話的で深い学びの実現～』 講師：黒田 諭（北海道教育大学附属函館中学校 副校長）	
18	学校保健	9/3	児童生徒の心身の健康を育む学校保健の充実	
19	I C Tと情報モラル	9/9	情報モラルを身に付けさせ、I C Tを適切に使用させるための指導と評価の在り方	
20	図工・美術科指導（実技）	9/12	基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う図工・美術科指導の在り方	
21	学校経営Ⅱ	9/26	スクールリーダーとしての教頭の在り方	
22	体育科指導（実技）	10/3	体育の見方・考え方を働かせ、協働的な学びを生かした体育科指導と評価の在り方	中
23	センター研究発表会Ⅱ	12/10	第20次研究2か年計画（1年次）の研究発表 ～センター研究員の実践～	未定
24	技術・家庭科指導（実技）	1/8	生活に課題をもち、改善する力を育てる技術・家庭科指導と評価の在り方	
25	書に親しもう	1/9	毛筆で心を伝える作品制作（小品）	
26	絵に親しもう	1/9	絵画で心を伝える作品制作（小品）	
I C T 実 技 講 座	A 表計算入門	6/10, 7/24	エクセルの基本的な使い方や表計算の概念について（初級者向け）	
	B 校務のための表計算	7/24, 10/2	I F関数やVLOOKUP関数など、実際の校務で使うテクニックや応用（中級者向け）	
	C 校務のための表計算/クラウド活用	6/27, 12/2	Formsと表計算アプリの活用、C O U N T I F関数を用いた集計など	
	D 授業のためのプログラミング入門	7/25, 11/6	ScratchやMicro: bitの基本操作など授業を想定した実技研修及びe スポーツ体験など子どもたちを取り巻く情報化社会の理解	
	E タブレットP C入門	6/6, 9/18	タブレットP Cの基本的な使い方について、クラウドサービスやWeb会議の利用	
	F 授業でのタブレットP C活用	7/29, 1/9	G I G Aスクールに対応した授業の実際やタブレットP Cの効果的・効率的な活用、生成A Iの活用方法について	
	G 校務でのタブレットP C活用	6/27, 7/29	クラウドサービスやタブレットを活用した校務の能率化について	
	出前講座	随時	管内各校（教育機関）からの要請に応じ実施する	

上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、2年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができました。

成 果

- ① 各教科で身に付ける資質・能力を整理し、評価規準を明確にすることで、単元で目指す児童生徒の姿を具体化することができた。
- ② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた単元構成の具体を、授業実践を通して示すことができた。
- ③ 各授業実践を通して、「指導の個別化」や「学習の個性化」、「協働的な学び」に向けた学習環境の整備を示すことができた。

課 題

- ① 具体化した評価規準を児童生徒と共有したり、形成的な評価に生かしたりするなど、学習、授業改善により効果的に活用できるようにする必要がある。
- ② 児童生徒がより主体的に学習に取り組んでいくためには、自由進度学習等の学習形態を児童生徒自身がより把握し、学習改善を図っていくことができるようにする必要がある。
- ③ 児童生徒にとってより必要感が高まったり、互いの学びの質が向上したりするような「協働的な学び」の充実に向けた指導計画や評価計画の改善が必要である。

詳細は、3月発刊の研究紀要第 49 号を御覧ください。

研究室だより

今、研究室では

第十九次研究 二年次

研究主題「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」

「指導と評価の一体化を目指す学習評価」

協力校
の実践

「数学的活動の楽しさや数学のよさ」を実感し、単元を通して学んだことを、社会における具体的な問題場面に活用することを目指した授業

旭川市立北星中学校 第二学年 数学科

授業者 溝 潤 悠 太

一 指導計画・評価計画

指導計画については、単元構成の工夫として①単元を通して扱う題材を設定し②単元を四つの小単元に分割し③身近な事象を多く扱い④活用問題を単元中盤に扱うなどした。評価計画については、多くの評価場面や評価方法を設定して、形成的な評価の充実を目指した。また、「学びの足跡シート」を活用して、単元・小単元の目標を設定し、学習のつながりを意識しながら学びを進められるようにした。

二 個別最適な学び・協働的な学び

指導の個別化については、生徒一人一人が自分の学習状況を把握することができ「スキルシート」や、学習者が自身のレベルに応じた学習に取り組むことができる「スキルテスト」や、表やグラフ、方眼を自由に選択し、自分で学習方法を決めることを目的とした「学習シート」を活用した。学習の個性化については、「自動車」を題材としながら、多くの数量を与えて、どの数量を活用するかを自分で選択できる課題を設定した。協働的な学びについては、自由に協働できる場面を設定して、必要に応じて友達と力を合わせながら、よりよい学びを進められるようにした。

三 本実践の成果と課題

指導の個別化を目指して、多くの手立てを講じることで、生徒一人一人に応じた適切な指導をすることができた。しかし、どの資料をどのように活用するのかを適切に判断することに課題が見られた。また、ヒントを多く用意し、個人で課題を解決できるようにしたことが、逆に必要感のある協働的な学びに向かう場面を制限してしまう様子も見られた。生徒一人一人が活用しやすい手立てをより適切に考えていくとともに、それらをどのように必要とするのかについても、検討を重ねる必要がある。



協力校 の実践

「数学的活動の楽しさや数学のよさ」を実感し、単元を通して学んだことを、社会における具体的な問題場面に活用することを目指した授業

美瑛町立美瑛東小学校 第四学年 算数科

授業者 森 将太郎

一 指導計画と評価計画

資質・能力の確実な育成を目指すために、単元構成と形成的な評価を工夫して行うようにした。本単元は三次構成にした。一次では、公式の導出やパターンの発見に取り組みながら面積の求め方を理解し、複合的な図形の求積についても考えた。二次は、既習事項を基に図形や具体物を使用して、異なる単位の面積を比較したり変換したりできるようにした。三次では、「問題解決と応用」の時間を確保し、身の回りにおける長方形や正方形を探し、面積を求める実践的な活動を行う計画を立てた。また、単元を通して「振り返りシート」を活用し、学習を進める中で児童が粘り強く取り組んだり、自分の理解度を把握して自己調整したりしている姿を形成的に評価した。

二 個別最適な学びと協働的な学びの視点

「レディネステスト」や「チェックテスト」の結果から、指導のポイントを明確にしたり、苦手意識をもつ児童に対する手立てや学習環境を準備したりすることで、児童の学習改善や教師の指導改善へとつなげた。本時では、個人思考で問題作りをした後に周りの考えや問題の作り方を共有し、ペアや小集団で再度問題作りに取り組んだ。他者と関わり、自分の考えを再構築したり、学び方を自己決定したりして学習調整すること、生活に既習事項を生かす楽しさを感じ、探究でざる学習者の育成を目指した。

三 本実践の成果と課題

身の回りの面積を実測する活動を通して、面積と生活とのつながり結び付ける様子が見られた。本時では、問題作りを行なったが、対話する必要性のある問いや学習活動についてさらに吟味することが課題となった。次時に提示した「教室の中に机は何個入るか」という問いからは、必要感のある対話やその後のそれぞれの興味に合わせた問題作りが展開された。



新年度から研修センターの事業が変更になります

【変更点】

- ① 夜間、土曜日の貸室及び宿泊事業を廃止します。
- ② 刊行物は電子化し、センターWebサイト上に掲示します。

電子化される発行物

- ・研修センターだより「教育研修」
- ・研修講座開催要項
- ・研究紀要（令和6年3月発行分から実施）

【見直しの趣旨】

上川教育研修センターは、教職員等の研修並びに研修に関する調査研究を実施するために設置されている教育機関で、設置目的のための事業運営に支障のない範囲で貸室事業等を行い、かつては使用料収入で事業運営を財政的に支えていましたが、直近10年間では歳入に占める割合も大きく低下しています。

一方で、支出に関しては、昨今の物価上昇の中で光熱水費をはじめとする諸物価の高騰、老朽化する施設の管理経費の増加などにより財政状況が逼迫しております。

このような状況において、当研修センターの設置目的に沿った研修事業が円滑に実施できるよう、一部事業を縮小することで支出を抑制し、財政収支の安定化を図ることが必要と考えて貸室の見直しなどの取組を行うこととしました。

また、刊行物の電子化については、教職員へのパソコン配置が行き渡り中でペーパーレス化を図るとともに経費を節減するため実施いたします。

なお、iPadを無料で貸し出しておりましたが、来年度から実施しないことになりました。

皆様には御不便をおかけいたしますが、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

利用上のお願い

会場利用にあたっては、時間区分内での使用を守っていただくようお願いいたします。

また、当日の混雑状況によっては、当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。



発行日 令和六年三月一日
発行 上川教育研修センター
〒070-0036
旭川市六条通四丁目
電話 〇二六二四二五〇一
責任者 伊東義晃
印刷所 有限会社岡本印刷

※この用紙は再生紙（古紙70%）を使用しています。